



コロナ禍における工夫

本県も含め全国的な新型コロナウイルス感染症の感染状況については、新規感染者数は減少傾向となっていますが、依然としてオミクロン株への警戒が必要な状況が続いていることから、引き続き子供たちの安全・安心と学びの保障の両立に取り組むことが必要となっています。

ウィズ・コロナと言われて久しい中、「コロナ禍だからできない」ではなく、「コロナ禍だから、どう工夫すればできるか」という発想はこれから必要になってくると考えています。右の写真は、音楽の様子です。これまで飛沫が飛ぶということで、リコーダーの演奏は、一斉指導ではしてきませんでした。口径の大きなホースを短く切って、吹き口に装着することによって、マスクの上からも演奏が可能になっています。これこそ、「どう工夫すればできるか」を形に表したものの一つと言えます。これからも職員のアイデアを生かした学校運営に取り組んでいきます。



各家庭におかれましても、引き続き感染予防の徹底にご協力をいただくようお願いいたします。

雑巾がけの清々しさ

掃除の時間が終わると、廊下には、雑巾がけの跡が残っています。子供たちは、水で濡らした雑巾を固く絞り、教室であれば隅から床の目に沿って雑巾で拭くことを心がけ、拭いた所を踏まないように後戻りするような姿勢で拭いていきます。私は、コのような手の動きから、コの字拭きと呼んでいます。1年生から6年生までコの字拭きで雑巾がけをしてくれます。コの字型に雑巾がけしていくと、隅から隅まで拭くことができるので、拭き残しがなくなります。また、何と言っても床を近くから自分の目で見て行うので、汚れを確認でき、力を入れて確実にその汚れを落とせます。今日も6年生は、黙々と職員室前の廊下を雑巾がけしていました。また、1年生の廊下を見に行くと、給食室前から教室前まで、1年生の子供たちが、雑巾がけをしていました。額に汗を光らせて、「見て見て～」と見せに来た真っ黒になった雑巾は、「帯西イエロー」の心を映し出し、美しくさえ感じました。雑巾がけした後の廊下は、子供たちの頑張りを感ずることができ、清々しい思いになります。

